

力作揃い「千年学区作品展」 12月4日、5日、コミュニティセンターで開催

「千年学区作品展実行委員会」の企画運営による「作品展」が、3年振りに開催されました。



「多肉植物」のお出迎えを受けながら進むと、書、絵画、いけばな、クラフトなど多彩な作品で華やかな会場。笑顔がこぼれ、会話の花も咲きます。



次代を担う千年小学校児童の皆さんの作品。

向かい側には教頭先生出品の写真。中越地震からの復興を願う長岡の祈り。



「超」繊細な細工を施したスイカ。加えて、オレンジや黄色など元気が湧いてくる色の石鹸から彫り出したお花をブーケとアレンジメントにし、取り合わせた作品。

専用のナイフ一本だけで作り上げるタイ伝統の工芸技術とのこと。



「結び糸」による虎から兎へと干支の引継ぎや
11月8日観測、世紀の天体ショー「皆既月食」の
写真といった、今年ならではの作品群。

コロナ禍により、地域活動を行いにくい状況が続いています。その中にあっても千年学区では、行事の再開をめざして年度当初に掲げた行事について、全て実施ができています。

6月からウォーキング、グランドゴルフ、カラーリング、秋祭りと概ね月に1回行事を展開し、コミュニティづくりを進めています。

企画運営は、千年学区連絡協議会の皆さんが行事毎に設置する「実行委員会」に分かれて行います。このことにより、役割分担と事業実施のノウハウ継承が実現します。併せて、ウィズ・コロナ時代に適った事業のあり方をしっかりと議論し、感染症対策との両立を図っています。

今回の作品展では従前に比べると出品数が少なかったため、レイアウトに工夫を凝らしました。また、恒例になっていた女性会によるお抹茶と和菓子のお振舞いを見合わせ、バザーは戸外で開催した秋祭りの時にあらかじめ実施しました。

その一方で、来年度以降、状況が許された時には作品展の規模を従前並みに戻すことを常に念頭に置き、今やるべきことを考えながら企画しました。

千年学区では、次代に向け、より安心して住み続けられ、また、困った時には支え合える地域であり続けるように、様々な種づくりを試み、種まきをされています。

～これからも千年学区の皆さんの笑顔にたくさん出会えますように～
素敵な作品に出会え、楽しいひとときをいただきました。ありがとうございました。